



「4人の自転車乗り」1943~48年 © SPADEM Paris & SPDA Tokyo

*Fernand Léger*

キュビズムの巨匠—

# レジエ展

1994 2月25日(金)~3月27日(日)

開館/午前9時~午後5時(展示室入室は午後4時30分まで) 初日は午前10時開展  
毎週金曜日は午後7時まで開館(展示室入室は午後6時30分まで)  
月曜日休館(ただし、3月21日は開館、翌日休館)

**高松市美術館**

高松市紺屋町10-4 TEL(0878)23-1711

入場料/

一般900円・高大生600円・小中生300円

(一般前売り及び団体20名様以上は2割引)

主催/高松市美術館・朝日新聞社・瀬戸内海放送

後援/外務省・文化庁・フランス大使館

協力/日本航空



「パイプを持つ男」1920年



「モナ・リザと鍵」1930年



「7月14日(革命記念日)」1914年

## キュビズムの巨匠—レジェ展

20世紀美術を代表するキュビズムの巨匠、フェルナン・レジェ(1881~1955)の日本で初めての大回顧展です。

フランス、ノルマンディー地方のアルジャンタンに生まれたレジェは、1900年にパリに出て設計家としてスタートしましたが、絵画の勉強をするために装飾美術学校やアカデミー・ジュリアンに通いました。やがて1910年ころから、今世紀の最も重要な芸術運動のひとつであり、写実主義的な伝統から絵画を解放させたキュビズムの運動に参加。ピカソやブラックとともにその強力な推進者として活躍しますが、次第に、色彩と動きを重視する方向に進みます。

レジェの個性的な様式を決定することになったのは、輝く砲身に魅せられたという第1次世界大戦の戦場での経験でした。戦後彼は、歯車やピストンのような金属性の固いフォルムを用いて、機械文明やダイナミックな都市の相貌をすばらしい構成力によって描き出します。特徴的な鮮やかな色彩、思いがけない組み合わせによる幻想性、細部を切り捨てた明快なデザインと明るい色彩装飾的な構成によって、現代における最もすぐれたモニュメンタル作品を展開していったのです。また、壁画、彫刻、映画など芸術の様々な領域を自在に横断する作品を制作し、偉大な表現者としての足跡を残しました。

本展では、フランスのピオットにある国立フェルナン・レジェ美術館を中心に、ケルン、ニューヨークなど世界各国から集めた代表的な作品約120点でレジェの芸術を展覧いたします。油彩、水彩に加えて、モザイク、タピスリー、彫刻などその多彩な仕事を迎えることによって、レジェの全貌に触れることができます。



「3人の音楽師」1930年

### ■記念講演会

#### 「ぼくとレジェ」

あいあう  
講師/豊嘸(画家)  
2月26日(午後1時30分より)  
美術館1階講堂にて  
入場無料 先着200名様

### ■催し物のお知らせ

#### 第5期常設展 —20代の作品とその後—

3月27日(日)まで



「2羽の鳥のいるコンポジション(黄色の背景)」  
1955年